

## 愛 珠

### 想い出ずるままに (十三)

中 村 道 子



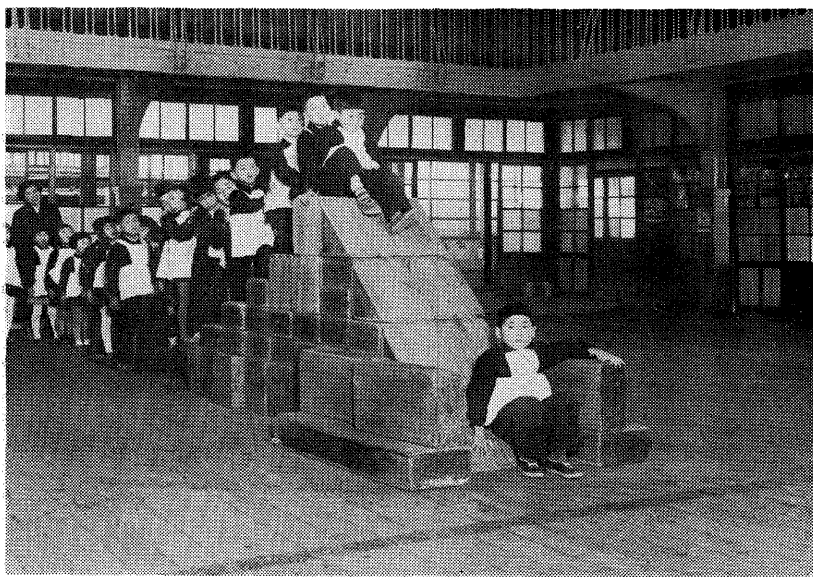
#### 一 遊戯室の柱の傾斜がわかり修理する

想起起せば昭和二十四年の七月の中旬、たいそう暑い日であった。どやどやと大きい男生徒が五、六人來園したので、驚いて尋ねると、「僕らは都島工業高等学校の生徒ですが、市役所の建築課の依頼を受けて、夏休みを利用して実習のために、愛珠幼稚園の校舎の破損箇所を調査してほしいといわれて來ました。それでこの調査の報告をし、よくないところは許可を受けて、できるだけ完全に修理するように、学校からも命令されて來ました」と、いったので、これを聞いた私は安心して、「それはご苦労です。暑いのに勉強とはいえ、ほんとにありがとう、しっかり調査してちょうだいや、それからこの調査の結果は、私にも知らせてちょうだいな」と、頼んだ。

ぴちぴちした、飾気のない、この若鮎のような人たちの仕事は、どんなにかどった。そうしてこの結果、私には気がつかなかったが、さすがに専門だけあって、広い遊戯室の柱が六本と、その頃職員室にしていた、昔の資料室の東側の柱も、二本が少し傾斜しているとのことであって、早く気がついて良かったと報告された。そしてこれと同時に、職員室の土台になる根太に修理の必要があることもわかったので、それぞれ機械を使用して、一週間余りかけて完全に修理してもらった。

#### 二 遊戯室前方の床板の一部を修理する

そしてこの手序に、これも子どもらが好んで遊ぶ道具の大積木を、平常は遊戯室の正面窓側に積み上げていて、そのままこの場から各自が遊びを進めていたので、自然にその場の床板が痛んで



大積木でスベリ台を合作（遊戯室で）

来るから、そのために板が荒れて刺が立ってはよくないと思い、約五坪程床板を張り替えることにした。

この仕事が始まって暫くした時、手伝さんが私を呼びに来たので、行って見て驚いた。それは六十坪もあるという、この広い遊戯室で、床の響の無いのを不審に思っていたが、誼なるかな、広いこの室内の床は二重張りになっていて、二枚の間に三寸程の空間を作り、この空間におが屑をぎっしり詰めていたから、おおぜいの子どもらが飛んでも躍ねても、足音の響の無いのは道理であると思った。

愛珠の建築には、このように人の目につかぬ所まで、入念であったのである。

今日まで私が受けたこうした無言の教えは、数々あったが、今度もまた、遊戯室の床にこれを見せられて、また敬服したことであった。

今度の修繕は家屋にとっては大切な根本的なもので、仮令少々傾斜でも、捨てて置けば大きくなるものを、それを小さい今のうちに、場所は変わっていても、あちこちに八本もの多い柱と、職員室の根太が、鉄の機械でぐっとあのように締めて、これでもよいといわれるまでに、直したことは嬉しくてほっとした。それに遊戯室の床の二重張りには、感激以上の感謝があったのである。



高飛びあそび（遊戯室で）

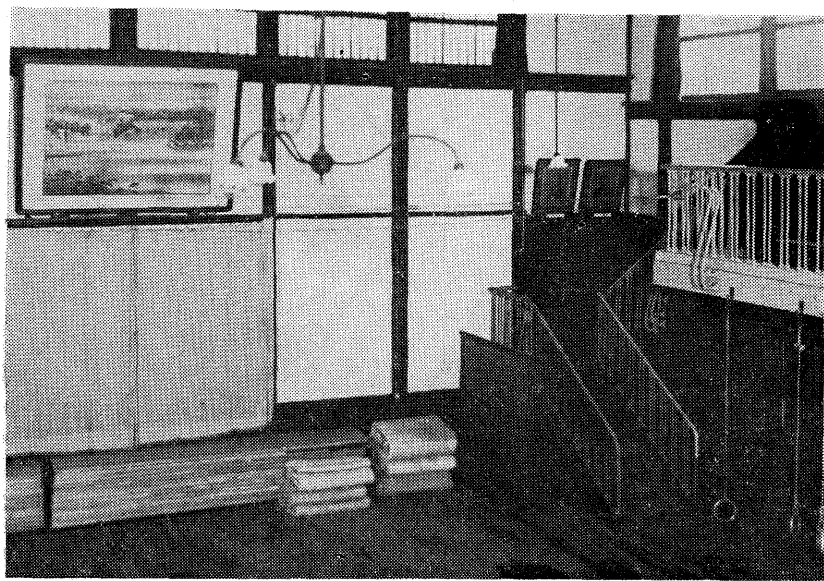
### 三 遊戯室の東側に納屋を造作する

今回の修繕の結果、私は拍車をかけられたように、以前計画したことのある、遊戯室の東側に納屋を造作することに決めたのである。

それは、この窓から、隣の会社との仕切までの間は約一間あって、長さが窓六個すなわち六間と、窓全部を挟むように、南と北の二カ所に二階へ上がる途中の踊場が二個あるから二間増し、その上に、玄関の二間幅廊下の外側に沿って、半坪の空間が二つ続いているので、合計十坪の空地があることになるから、これを地価の高い北浜で遊ばせることは、無駄だと思っていたから、今回の実施は非常に嬉しかったのである。

早速実行にかかり、ここにあった遊動門木を毀って、この跡を漆喰で地ならしをし、屋根や囲いを造作して、細長い納屋が出来上がった。倉庫の地下室が狭くなった現在、ここを補いにして、大型の雑具や、梯子のような長い物を片附けると同時に、人ひとり通行出来るほどに空け、職員室と使丁室が直通出来るようにしたので、非常に便利になり、能率が余程違って効果が上がった。

職員は皆大喜びで、「裏街道を行くとしても早い」といって、往来は繁く繁昌するので、今度の造作は誰にも喜ばれるから私は嬉しいと思った。



遊戯室の壁（正面の幕の中はスクリーン）

#### 四 遊戯室の壁にスクリーンを特設す

納屋が出来上がったことは大層嬉しかったが、その内部や、棟木などが、判然遊戯室から見えて見苦しいので、保健室の時のように、壁に塗潰して、その中央にスクリーンを特設しようとした。こうした時でないとい、わざわざ出来難いと思ひ、よい機会を得たと嬉しく思つた。

早速仕事にかかり、天井の直ぐ下にある採光用の大きい窓は、そのままとし、それに続く白壁もこのままにして、それに続いてまた下にある硝子障子の欄間と、戸締用の一間の大きい硝子窓は、皆壁に塗替えてしまつたのである。壁の色は全部白に近い薄いクリーム色にし、中央にあつた窓の二つ分を、スクリーンに特設されたのである。

以前、明治の末期の頃、稲葉園長は時代に即応して幻燈や映画を時々幼児にも観覧させられたと、その頃就職していた人たちから聞いていたから、これらの設備は同園長によつてせられたものと思うが、今回天井につけてあつた二つの滑車は取外され、採光用の窓や、戸障子を覆つた暗幕もたくさんあつたが、随分古くなつていたから、これらの備品や操作用の品々も廃して、室内の改装を機会に、PTA会員の方々の好意によつて新調せられて寄贈され、その後は安心して、楽しく映画会を開催することが出来

たのである。

また隣の会社は五階の洋館であつたから、三階までは、時にこれらの動きが見えることもあつたが、これも今回解消されたのである。そして室内の明暗について、少々案じたが、これとて取立てて感じず、却って落着きが生じ、子どもらの注意も集中しやすくなり、遊戯室と兼用の講堂が出来て結構であつたと感謝した。

## 五 使丁室の改装

なお、通り抜けの納屋に使丁室の方からはいる入口は、二間廊下の壁を打ち抜いたので、この右横に続けて建てられていた。建設当時からの下駄、傘置場で、十一坪の広さがあつて、磨きをかけた御影石が美しく敷詰められていた。そしてここの腰板には、細い枳が取着けて、体裁よく白壁の下に、填込みになっていた。幅が一間あつてこれをずっと上に上げると、中は全部腹物入れで、整然と一つ一つの箱に仕切つてあつたが、随分古くかつ乱暴に扱つたらしく、あちこち破損されていて、今後何にも使えそうにないから清掃後腰板を打着けて、大きい石畳のみ全部漆喰代わりにして台所に改装した。硝子障子で仕切られている。昔の供待部屋は、現在は校務員専用になり、これもまた便利なよい小使室に変わった。

やがてまた、PTA会員の料理講習会も開催され、お役に立つ

ことだろう。

## 六 国旗掲揚の許可を軍政府より受く

昭和二十四年一月元旦を迎えた日、軍政府から「今日以後は無制限に国旗の掲揚を許可する」という通牒のあつたことを、市教委の通牒で知った私は、久しぶりに日の丸の国旗が正門で翻翻とひるがえる姿を想像して、感慨無量であつた。

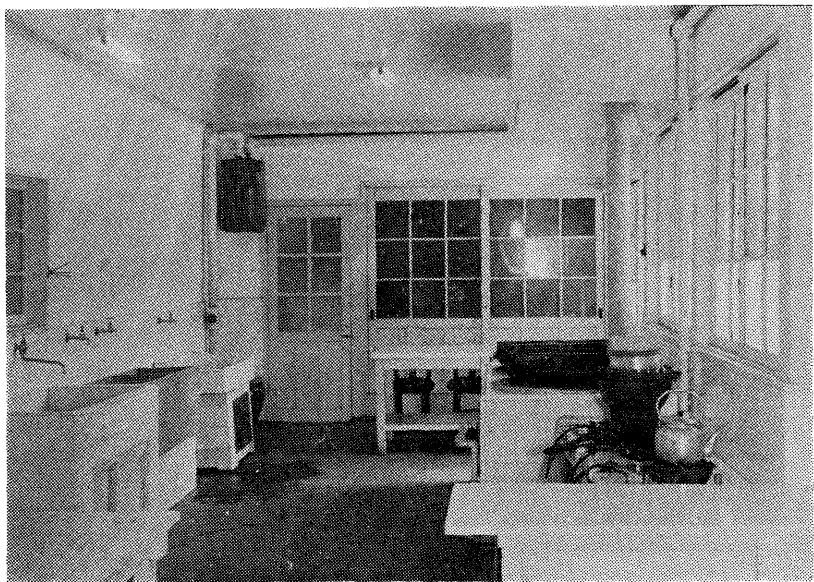
それに来年の六月一日には、愛珠も創立七十年記念日を迎えるのだから、この日には、ここの門頭に国旗を立てることが出来ると思うと、実に嬉しかった。この喜びは、生死を越えて、日本人たちの努力のおかげであると思うと、思わず声が出て「ありがとうございます」と、何度もひとりごとをいった。

今はその準備として、この日を迎えるために、園舎のあちこちの修理や改築に心がけるとともに、予算のこともあり、一層心を砕き、そして引締めて、心遣いをしていたのである。

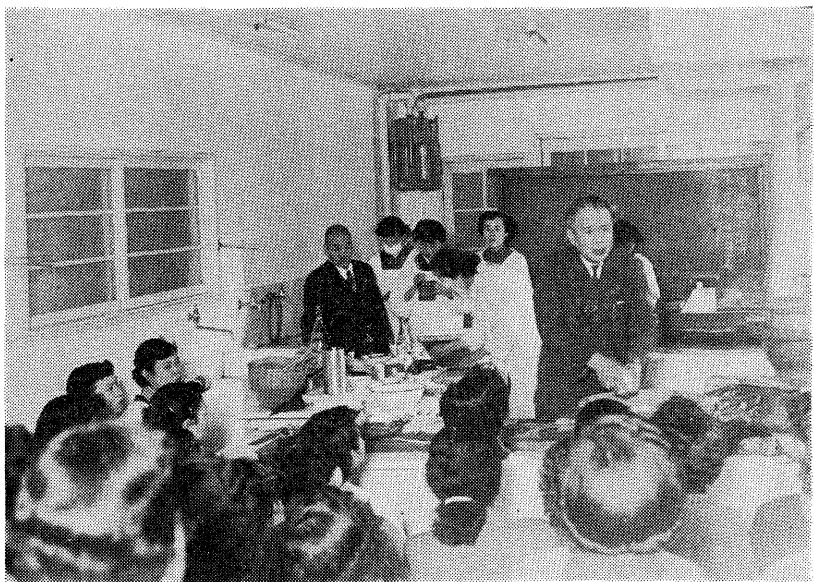
## 七 常に保育の内容に心を砕く

豊かな内容を持つ保育を実施するには、それに伴つて、最大限の形式を考慮せねばならぬと、常に念頭に置いて、日々保育を実施していた。

そのため昨今のような折柄に在っても、私たち保母は、保育内



改 装 の 使 丁 室



使丁室で日本料理の講習をうける

容の進展に関しては、疎にせず、各自の研修に努力を惜しまなかったのである。理論のみならず実地の上にも、また看護上からも、骨惜しみをする者は誰もなく、皆よく励んで楽しんでいった。

こうした心構えで、日々勤務して下さる保母さんたちの熱心に、私は心から感謝して、その幸福を祈らずにおれなかった。

実際、愛珠には良い先生が揃っていて、大きい声ではいえないが、私は誇りにさえ思つて大切にしたい。

## 八 保母採用の苦勞

学校勤務の人たちの中で、幼稚園勤務を希望している人を、予め知つて人柄を調査して置き、愛珠に榮転あるいは結婚退職者のある時には、以前調べて置いた人の中から選び、この人の勤務先の校長に、愛珠への転出を頼むと、仲々許可は得られなくて、却つて難問題がついて来た。例えば先方の校長は「本人が幼稚園を志望するなら許可をしても良いが、後任が容易でないから、今学期待つてもらいたい」とか、「後任を二人出してほしい」とか、附帯事務がついて困つたが、良教師を得るなれば、容易に許可が得られないことは当然であつて、当方も根気よく待ち、各々希望を揃えて提出し、不自由があつても、忍んで待った。

ようやく着任して顔を見せて貰つた先生は、学校の教育と幼稚園での教育は、対象が違うだけに、その方法や態度も変えねばな

らず、この生活に馴れるまで、ある時期までは可哀想な程努力しているから、慰めたり、励ましたりして同情し、その間当方もなお不自由を忍ぶが、これは時期の問題で、そのうち流石に時を重ねるに従つて、良い保育が出来るようになり、事務方面も手落ちなく片附けることができるから、例え種々な苦勞をしても、甲斐があつたと満足していた。そしてその特長を生かして何でも安心して任せられたのである。

人事間の諸問題は何事によらず複雑で、簡単にはか取らないものだから、互に失敗のないように注意し合つていたから、職員間は円満であつた。

ある体育課長が所用で来園せられた時、保母たちの大笑の声を聞こえて来たので、「この先生の声ですか」と、尋ねられたから「はい」と返事すると、「これは珍しい!! 幼稚園であんなに笑うことが時々ありますか」と、また尋ねられたから「何時も、あんな調子ですが——」と、いうと、先生は大変喜ばれ、「屈託なく、あんなに笑えるのは、幼稚園では珍しくて結構です。私はあの声を聞いて、ほんとに嬉しいでした。僕はお礼に、何か歌を歌つて聴いてもらいますわ——、用事がすんだらここへ、皆に来て貰つて下さい」と、いわれたから、この由を皆に伝えた。

課長も嬉しうに、京大の校歌を聞かせて下さつたので、皆はにこにこ謹聴し、終わった時には、一同は強く拍手して喜んだ。